

# 自社商品のブランド力強化に向けた取組

会社名 株式会社谷口化学工業所  
 所在地 東京都墨田区東駒形4-14-2  
 従業員 13名  
 資本金 5,000万円  
 業 種 靴塗料類製造販売、靴付属品製造販売



## 支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 新たなブランド商品を開発・販売することによって、事業を拡大し、認知度を高めていきたい。
- 商品ラインアップを拡充し、知名度を高めていきたい。

## 支援を受けてできるようになったこと

After

- ブランディングの考え方を理解し、事業目標を達成するためのアクションプランを策定することができた。
- 目指すべきブランドストーリーを構築することができた。

## 今後の事業展開の展望

Future

- ブランド戦略の軸となるブランドブックを作成し、それをもとにした事業を実践していく。
- 市場への新商品投入および認知度向上を図り、事業成果を高めていく。

## 重点支援を受けた事業や商材



創業明治43年の日本最古の靴クリームメーカーである。手作業の製法によって実現される品質に強みがあり、「ライオン靴クリーム」で知られるブランドを有している。

最近新たなブランドとしてExcellentを投入したが、さらなる事業拡大を目標として、次のブランドについても検討していきたいと考えている。

また、靴クリームだけでなく、レザーケア全般に商品ラインアップを拡充していきたいと考えている。

【出典】株式会社谷口化学工業所WEBサイト  
<http://taniguchi-kagaku.com/>

## 重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の策定	認知度を高めて市場でのシェアを高めていくために、事業戦略を固めておく必要がある。
ブランド戦略の策定	現状、ブランディング活動を十分に実施できていないが、今後の事業目標を見据えて、ブランド戦略を構築する必要がある。
新商品開発戦略の策定	ブランド戦略を整理したうえで、そのブランドに見合う新商品開発の方向性を検討する必要がある。
販売チャネルの拡充戦略	ブランド戦略を実行へと移していくにあたり、新たな販売チャネル構築に努める必要がある。
知財戦略の策定	ブランド戦略を支える基盤として、当社にとって必要な知財を明らかにし、知財活動に取り組んでいく必要がある。
社内体制の整備	上記戦略を実行していくための体制整備・意識高揚が必要である。

## 重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業戦略検討	ビジネスモデルキャンバスを活用し、ブランド戦略と並行して検討することによって、ブランド戦略と融合した事業戦略およびそのアクションプランを策定できた。	弁理士
ブランド戦略検討	本格的なブランド戦略の検討に取り組み、自社のブランドストーリーを策定することができた。また、ブランドの推奨規定・禁止規定についても検討することができた。	弁理士 ブランド専門家
新商品開発の方向性検討	3C分析のフレームを活用し、さらにセグメンテーションやターゲティング等の考えを取り入れることで、今後の新商品開発の方向性を明確にできた。	弁理士 ブランド専門家
知財戦略	ブランド戦略の一環として、商標のマネジメントに関する重要性を理解できた。	弁理士 ブランド専門家

## 支援チーム紹介

リーダー専門家: 弁理士 押久保 政彦

活用専門家: ブランド専門家

知財総合支援窓口担当者: 東京都知財総合支援窓口 大仲 通弘

PO(プログラムオフィサー): 松尾 誠剛